



支援員だより

発行者：山口県・公益財団法人山口県ひとづくり財団

もくじ

- P 1 支援員さんの声
支援員研修会の日程
- P 2 支援員さんの声
- P 3 求む!「カワウ」の情報
- P 4 山口自然共生ネットワーク会員募集中

支援員さんの声

「支援員に登録されて早6年…」

佐々木 勝 (山口市在住)

日々の観察の中で発見したことや活動での思いなどをお寄せいただきました。

「支援員だより」への執筆の機会を得て、改めてこの6年間に研修会に参加した際の資料を見ながらペンをとりました。

「保護支援員に応募した動機…」

田んぼを整形するための「ほ場整備事業」の中で、ホタルの保全等を目的に、水路工事のうち約80m区間はコンクリートを使わず、護岸は地域の石を利用した石積で、水路の底は土のままとし、水生生物に優しいと思われる手法で、ビオトープ水路を整備しました。

現在、水路には、ホタルやドンコ、ドジョウ、ザリガニなど様々な生きものが見られ、近くの小学校の自然観察等の体験学習の場に活用されています。この水路の清掃活動を仲間と一緒に年3回実施していますが、子供達から水路に棲んでいる生きもの等について質問され、答えられるために少し知識を得ておくべきかと思い、気楽な気持ちで応募しました。

最初の段階は、まず、山口県内の野生の動植物の実態を知っておくべきと思い、①海浜で見られる貝類の観察、②高原で見られる植物の観察、③小学生によるホタルの学習、④秋吉台の山焼きへの参加、⑤国有林(天然林)の樹木観察等の研修会に参加してきました。

この結果、登録前と比べ、県内の希少野生動植物の実態を幅広く知ることができ、心より感謝しています。

今後も末永く、仲間6人で童心時代を時折思い浮かべながら、ビオトープ水路の草刈りや清掃等の保全活動を楽しみ続けていきたいと思っています。(ビオトープ水路保全会：山口市佐山)



〈今年度の支援員研修会の日程〉 (詳細は開催案内参照)

○第1回 錦川のオオサンショウウオ

日時：平成26年10月4日(土) 9:30~15:30

場所：らんかん高原オートキャンプ場交流センター、宇佐川周辺 (岩国市錦町)

内容：錦川のオオサンショウウオの生態や保護活動等の学習、生息環境の観察など

○第2回 つのしまの自然・ダルマガク探訪

日時：平成26年11月8日(土) 10:00~15:30

場所：つのしま自然館、牧崎風の公園 (下関市豊北町角島)

内容：角島の自然環境に関する講義、企画展「砂のつばやき」、ダルマガクの観察など

支援員さんの声

「滑山国有林をたずねて」

土井 英治（山陽小野田市在住）

平成25年11月に滑山国有林で開催された支援員研修会に参加しました。

山口森林管理事務所の乗用車に同乗させていただきふれあいパーク大原湖を出発。滑山林道は谷間にあり多くの広葉樹が紅葉して美しい。ウォーキングして爽やかな風と鳥の鳴き声、木々の色彩を堪能したいと思う。滑山国有林での観察ポイント三本杉を仰ぎ見る。樹齢約300年の大杉はお互いが寄り添うように直立し予想外の大木に驚く。木道に立って木肌に触れてみれば大杉と命がつながった感じがします。林道終点の駐車場で、講師の森林インストラクター橋本、金丸氏より「滑山国有林の樹木について」解説を受けた後、実地研修として山腹斜面を登ります。特徴ある樹木については、その都度、講師より樹木の種名等の解説があるので要点をメモする。メインポイントの一つ滑マツを初めて見ました。ひたすらに天を目指して伸長することを優先させたのか滑マツの下半部には枝数が少なく材質も最高級。そのため、古来より良材として全国に供給され続けました。今では、樹齢200年を超える貴重な滑マツは僅か20数本に減少している



ので、育成・保護が強く望まれます。標高600m辺りにはブナ林が点在します。通常、ブナ属は緯度、標高の高い地点に植生する樹木です。一般的には標高約600mを境に下方がイヌブナ、上方がブナにすみ分けされていますが、滑山国有林では混生林となり全国的にも非常に珍しいものです。かなり歩数もあがり当日の最高点でブナ林を一望しながらティータイムをしていたら、樹上にヤマブシタケを発見。超珍品のキノコで白ウサギが丸まったような形で直径約30cm、食用にすれば美味。下山して大原湖の白鳥の羽と落果したギンナンを拾いお土産にする。大原湖畔の野猿が見送ってくれました。

「保護支援員になって」

有竹 英喜（光市在住）

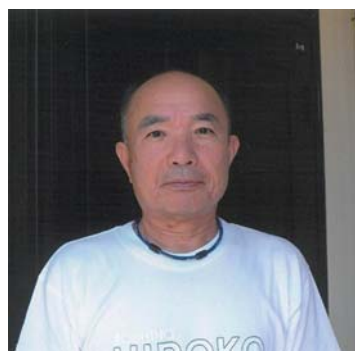
はじめて研修に参加した時、みなさんベテランというか、その道のプロの方ばかりで、～動機が単純すぎたかな～何も知らなくて後悔しました。

近年、私が住んでいる周辺の環境（生き物）が少しずつ変わってきているように感じてなりません。夏が近づくと、蝉の一番手で聞こえていたにい蝉、次があぶら蝉、くま蝉、つくつくぼうし等々が順番に聞こえていたと記憶しています。近年、にい蝉の声が聞こえず、いきなりあぶら蝉の声が聞こえてきます。

夏が過ぎる頃、赤とんぼが群れをなしてゆっくりと「もうすぐ秋ですよ」と飛んでいました。昨今、季節の節目節目に見られていた生き物の姿がみられなくなりました。

環境の変化に対応してきた生き物、対応できなかった生き物、生物多様を思い個体だけでなく、その他にも減少している生き物、姿を消した生き物もいるのではと応募しました。

みなさんに教えてもらい覚えたつもりが、いつの間にか忘れ、その都度同じ事を教えてもらいながら、1歩でなく半歩でも前進できたらと願っています。私のモットー「1人の100歩より100人の1歩」を大切に、仲間が増えれば輪も広がる。周囲に目や耳のアンテナが増え、ネットワークが広がります。1人でも多くの仲間ができるように待っています。



求む！「カワウ」の情報！

山口県自然保護課

近年、カワウの数が増加しており、平成 23 年には、全国で 12 万羽生息していると推定されています。

山口県では、これまで冬期には 3,000 羽を超えるカワウが確認されていましたが、春から夏の間はそれほど多くありませんでした。しかしながら、平成 25 年度に県が実施した調査では、この時期に 1,000 羽前後確認されるなど、8 年前に比べて大幅に増加しており、アユ等の捕食による内水面漁業被害等が問題になっています。

こうしたことから、カワウによる漁業等被害の軽減とカワウ個体群の長期にわたる安定的な維持を図るため、平成 26 年 3 月、「特定鳥獣（カワウ）保護管理計画」を策定し、平成 26 年度からカワウの適正管理に取り組むことにしています。

カワウってどんな鳥？

カワウの仲間（ウ類）は、カツオドリ目ウ科に分類され、世界で約 40 種が確認されています。

カワウ（学名 *Phalacrocorax carbo*）は、南米と南極以外の大陸に広く分布しています。

日本に生息するカワウは、*P.c.hanedae* という亜種に分類され、北海道から琉球諸島、大東諸島まで広く分布し、河川、湖沼、海岸に生息しています。

体長は約 80～85cm、体重は約 1.5～2.5kg で、オスはメスよりもやや大きいです。野外での区別は難しいとされています。羽色は全身褐色がかかった黒色で、繁殖期になると頭部や腿部に白い繁殖羽が生じ、目の下の露出部が赤くなり、下嘴の付け根の黄色の裸出部は黒ずんで見えるようになります。

日本には、カワウのほか、ヒメウ、チシマガラス、ウミウの計 4 種類のウ類が生息しています。

チシマガラスは北海道の沿岸部の限られた地域に分布しており、ヒメウとウミウは北海道と東北地方の一部で繁殖を行い、冬季には九州まで越冬のために移動します。

このようにカワウ以外の 3 種は主に沿岸域に分布していますが、カワウは他の 3 種とは異なり、内湾を中心とした沿岸部から内陸の河川、湖沼までの水域を広く利用して生活しています。



カワウ（成鳥）

出典：特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドライン及び保護管理の手引き（カワウ編）：環境省

ねぐら・営巣地を教えてください



営巣地の様子（山口市徳地大原湖）

出典：特定鳥獣（カワウ）保護管理計画：山口県

カワウの適正管理には、生息状況の把握が欠かせません。カワウは、日々、ねぐらと採食場所を往復していますが、このような日々の移動のほか、繁殖期と非繁殖期もしくは夏季と冬季で、ねぐら場所を変えることもあり、「いつ・どこに」という情報は非常に重要なものになります。

ご連絡の方法については、県自然保護課のホームページでお知らせしていますので、カワウの適正管理のため、皆様のご理解・ご協力をお願いします。

「やまぐち自然共生ネットワーク」会員募集中

やまぐち自然共生ネットワーク 副会長 中村 裕三

茨城県霞ヶ浦に、40年後にコウノトリ、100年後にトキが舞う計画を立てている団体があります。水質が悪化した霞ヶ浦において、1995年から浮葉性植物のアサザを増やそうと活動している「アサザプロジェクト」で、子供から大人まで、これまで25万人が参加しているそうです。ちなみに、同プロジェクトのツルは50年後に計画されています。この点だけを考えれば、山口県でも50年後にトキの飛翔を見ることができのかもしれない。

山口県では、八代のナベツル、錦川のオオサンショウウオを初めとした動植物の保護や自然環境保全に取り組む団体と個人で構成されている「やまぐち自然共生ネットワーク」が平成16年7月に設立されました。

山口県の自然環境をさらに豊かにして後世に引き継ぐことを目的として、現在、団体会員48、個人会員112名がネットワークを作り、広く情報交換や自然環境保全等の活動を通して「人と自然がふれあう魅力あるやまぐち」をつくっていきたいと考えています。

主な活動として、毎年、団体や個人の交流・事例発表・体験学習会等を行うリレーミーティングを開催しています。これまで、山口市徳地の滑山国有林や山陽小野田市の竜王山、周南市鹿野の長野山、萩市の菊ヶ浜、周防大島などで開催しており、各地の自然環境や保全活動等に関する学習、自然観察会、意見交換会、保全活動等を実施しています。

今年は、秋に岩国市錦町で開催する予定で、国指定天然記念物オオサンショウウオの観察やらんかん高原での1泊2日の交流会等も計画しています。

また、今年は、5月に周南市の大田原自然の家周辺において、自然観察や菅野ダムの見学を実施しており、山口県の自然と人間との共生を観点に、毎回、趣向を変えて観察会等を企画しています。

個人会員として希少野生動植物保護支援員の方も多数在籍されています。年会費は個人1,000円、団体2,000円です。多くの方のご入会をお待ちしています。

問い合わせ先 <http://www.gotjp.com/yama-kyou/>

または 山口県環境生活部自然保護課（担当：田中）

TEL：083-933-3060 FAX：083-933-3069



皆さん、Eメールの御登録はされていますか？御登録をいただいた支援員の方には、自然とふれあう行事等について、随時、御案内をさせていただきます。御希望される方は、自然保護課に電話・メール等で御連絡ください。

また、これらの行事等を主催される方で、支援員の皆さんにお知らせをしたいという方は、自然保護課まで御相談ください。

発行元：(公財)山口県ひとづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター
〒754-0893 山口市秋穂二島1062 TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720
<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>

